

運営委員からのコメント

※運営委員とは、まちづくりサポートセンターの運営業務について、助言や協力をいただく外部団体の方々です。福祉・経済・メディア・大学・登録団体のそれぞれの分野の方に委任しています。

● 小野 裕之

社会福祉法人 福山市社会福祉協議会 常務兼事務局長
 少しずつまちサポと地域とのつながりも増えています。ゆるやかなつながりの中で何か一緒にやろうという雰囲気をいかに浸透させていくか、これからは人とのつながり方がテーマ。まちサポには、そういった人の関係性やつながりを上手く作ってほしいです。

● 中村 友紀

特定非営利活動法人どりいむスイッチ 理事長
 活動の相談や場づくりなどサポートをしてもらい、まちサポはすごく身近な場所になりました。やりたいことが形になる経験や自分でもできると思えることを通じて、まちサポは一人ひとりの成長をサポートしてくれると思います。

● 島田 宗輔

一般社団法人 福山青年会議所 顧問
 まちサポとの協働は、経営者層の多い青年会議所に足りない視点や新鮮な気付きを与えてくださっています。今後も協働事業や相互に相談できる関係を深化させて「ひとまちコネクト」事業など企業と市民活動団体を一緒につないでいきたいです。

● 宮前 良平

福山市立大学 都市経営学部 都市経営学科 講師
 まちサポの協力を得て、授業として学生が市民活動のヒアリングをしたり、実際に地域で活動させてもらうなど、良い経験になりました。また、つれのうてNIGHT大学版の始動もサポートしてもらい実現しました。ぜひ引き続き連携を深めていきたいです。

● 田中 宏行

株式会社エフエムふくやま 専務取締役兼局長
 エフエムふくやまのラジオ番組「ヒトマチラジオ」で、まちサポ登録団体の紹介をしていますが、まちサポ自体の取り組みも広く市民に知ってもらうことが必要だと思います。関係機関の広報媒体でも、しっかりPRしていかれることを期待しています。

「福山市まちづくりサポートセンター」に登録しませんか？

あらゆる市民活動を全市的に支援する「まちサポ」では、さまざまな団体とのマッチング(紹介)、情報の受発信、団体・人材育成、相談窓口など、あらゆる視点からまちづくりに参画するみなさんをサポートしています。

まちサポ登録団体になると、センターの部屋を活動で使えるほか、情報発信の場を活用いただくことができます。登録料等は無料です。お気軽にご相談ください。

1

多様な人材・団体のネットワークづくり

地域課題・社会的課題の解決に向けた、団体と団体とのマッチング(紹介)やボランティア・NPO団体とのネットワークづくりなどを行っています。

2

情報の収集・発信

ボランティア団体やNPO団体、行政が行う事業内容やイベント情報、さまざまな団体からの助成金情報などのまちづくりに関する情報をウェブサイトやSNS、登録団体向けメールマガジンで発信しています。

3

人材・団体の育成

公益的な市民活動を担う人材づくりやそれに必要な知識・ノウハウの提供、助成金申請の支援などを行っています。まちサポ主催の連続講座「まちサポゼミ」も開催しています。

4

ボランティア・NPO等専門相談

専門家による、NPO法人の設立に関する相談やボランティア団体等の活動資金確保など、団体運営に関する相談会を毎月第3木曜日に開催しています(事前予約制)。



webサイト



facebook



Instagram



LINE公式



福山市まちづくりサポートセンター

広島県福山市本町1-35 福山市市民参画センター 2階

TEL.084-923-9006 <https://fukuyama-machisapo.com>

まちサポ アニュアルレポート

Fukuyama City Community Development Support Center annual report

2024

報告対象期間: 2022年4月~2025年3月



福山市まちづくりサポートセンター

(運営団体: 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター)

福山市まちづくりサポートセンターとは

あらゆる市民活動を全市的に支援する「まちサポ」では、さまざまな団体とのマッチング(紹介)、情報の受発信、団体・人材育成、相談窓口など、あらゆる視点からまちづくりに参画するみなさんをサポートしています。

「まちづくりってすごいことをしなければならない」「まちづくりって難しいこと」と思われるかもしれませんが、全くそんなことはありません。

まちづくりは普段の暮らしの中の小さな“気づき”から始まるものだと、まちサポは考えています。

「困ったな」「もっとこうなったら楽しいな」という思いが、ヒトやモノ、情報に出会うことで形になり、仲間をつくり、新しい活動が生み出される、そんな機会や場をコーディネートするのが私たちの役割です。



まちサポでできること

集う

ミーティングスペース
情報コーナー

つながる

交流サロン(共有会議室)
※登録団体のみ

学ぶ

セミナールーム(予約制)
※登録団体のみ

はじめる

ボランティア募集の紹介
団体間のマッチング(紹介)
NPO等専門相談

まちサポ登録制度

まちサポで次のことをする場合は、登録が必要です。

- 交流サロン・セミナールーム・相談室の利用
- メールボックス・レンタル書庫の利用
- 団体情報や会員募集、行事案内などの情報発信

まちサポスタッフ紹介



センター長 中尾 圭
コミュニティデザイン事務所、地域おこし協力隊を経て現職。普段は、聞き書きや地域の場づくりに取り組む。内海町在住。



コーディネーター 三浦 孝子
医療・教育分野の相談職を経てまちサポへ。裏方作業や誰かの“やりたい”を支えるのが好き。向島在住。



コーディネーター 坂本 佳世
障害福祉の仕事を経て、人の成長に関わりたいと思い、子どもの造形教室を運営する。大学院でヒトの発達プロセスを研究中。



コーディネーター 桑田 嵩平
理学療法士。介護・医療・障害福祉・社会的養護の仕事経験あり。ひゅげな森の学校として里山を活かした市民活動もしている。



コーディネーター 瀬戸 房子
芸術、都市計画やまちづくり会社を経て、居場所づくりやシェアスペースなど様々なコミュニティの立ち上げや運営に関わっている。



コーディネーター 藤井 奈苗
地域おこし協力隊、NPOを経て、現在はまちサポの他、行政と公民連携事業の支援をしている。最近ではウェブ、情報発信に関して勉強中。

数字で見るまちサポ

2024年12月末時点

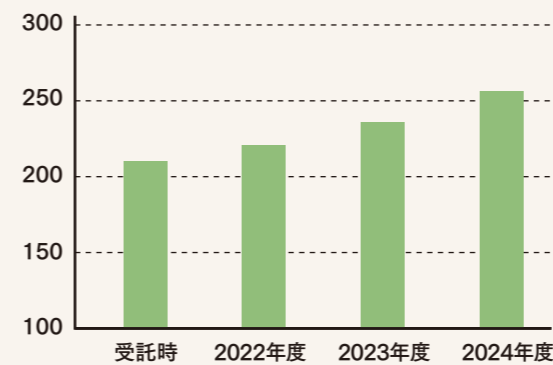
登録団体数

255

 団体(受託時※ 208団体)

※福山市まちづくりサポートセンターの運営は、2022年度より特定非営利活動法人ひろしまNPOセンターが福山市より運営業務を受託しています。

登録団体数の推移



登録団体の活動の分野

- 保健・医療・福祉
- 社会教育
- まちづくり
- 観光振興
- 農山漁村・中山間振興
- 文化・芸術・スポーツ
- 環境保全
- 災害救援
- 地域安全
- 人権擁護・平和推進
- 国際協力
- 男女共同参画
- 子どもの健全育成
- 情報化社会の発展
- 科学技術の振興
- 経済活動の活性化
- 職業能力開発・雇用機会拡充
- 消費者の保護
- 市民活動支援
- その他

相談件数

613

 件

マッチング件数

167

 件

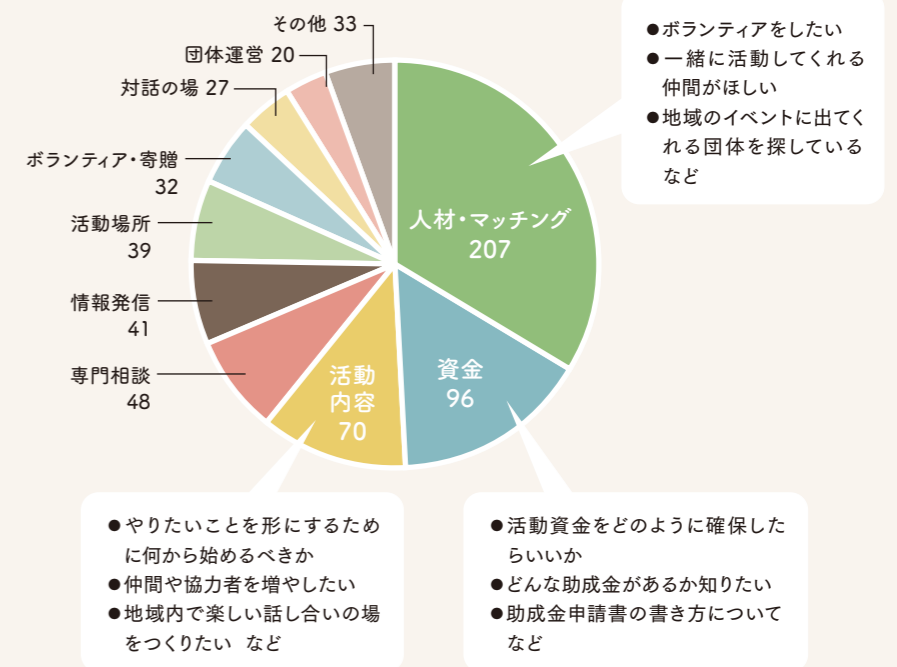
利用者数※ 延べ

37,010

 名

※利用者数は、施設内各部屋の利用人数、相談人数、主催行事の参加人数を合計したものです。

相談内容



まちサポの活動とめざす姿



vision

めざすまちの姿

「自分たちのまちは自分たちでつくる」
と思える人が増えているまち

小さな活動が増えている

- ・困りごとを他者と共有できる
- ・自分にもできることがあると思える
- ・身近な地域資源やつながりを活かした活動が増える

多様な活動が生まれる

防災 子育て 福祉 観光



学び合う場ができる

- ・自分たちの活動を共有しあう場がある
- ・他地域の事例を共有したり、学ぶ場がある

ノウハウや事例が集まる

まちづくりの情報が
たくさん!!



中期目標(3~5年)

様々な人や
小情報を知れる

まちサポへ行くと
活動のヒントが
もらえるよ!!



長期目標(5年~)

多様な主体同士の
コラボレーションが生まれる

- ・多様な主体が思いを共有できる場がある
- ・企業や地域、自治体との多層的な協働が生まれる
- ・協働をコーディネートする団体がある

- 地域に人と情報が行き交う場がある
- 地域に対話の文化と違いを認め合える土壌がある
- 多様な主体同士がパートナーシップを築ける

現在

団体の
育成・発掘

- ・まちサポゼミ
- ・ヒトマチセミナー
- ・ヒトマチカフェ



情報収集・発信

- ・活動のヒアリング
- ・まちサポ情報メール
- ・ウェブサイト、SNS

まちサポに
様々な人や
情報が集まる

相談

- ・個別相談
- ・ボランティア・NPO等専門相談

コラボレーションが生まれる

- ・分野の異なる団体の協働が生まれる
- ・近い分野の団体同士のネットワークができる
- ・新たに活動に関わる人が増える

ネットワークの形成

- ・つれのうてNIGHT
- ・つれのうて文化祭

地域の広場で
演劇!!

大学・企業
なども!!



廃材で
ものづくり!!



オフィスに
地元野菜の
配達!!



まちサポ主体の主な事業



まちサポは、「自分たちのまちは自分たちでつくる」というシビックプライドをもつ市民のまち福山をめざしています。多様な人々が交流する場や学び合う場をつくることで、お互いの活動や思いが見える化され、多様な活動や協働が生まれ、「自分にもできる」と考える市民が増えていくことを目的に下記の事業に取り組んでいます。

まちづくりの土台を育む対話の場

つれのうてNIGHT

実施回数:61回 参加者数:357人

毎月7のつく日に、その日集まった人でテーマを出し合い、答えを求めない自由な対話の場を開催。まちサポスタッフが、まちのいろんな人に出会いたいという思いから始まった。世代や立場の違う多様な人たちが出会うことで、お互いの価値観を受け入れることや、互いの活動を知って新たな活動が生まれることにつながっている。

つれのうてNIGHTには5つのルールがある。「相手を否定しない」「最後まで話を聞く」「会話のバトンを他者に渡す」「話さなくてもいい」「自分自身の変化を楽しむ」。対話を重ねるごとに参加者の変化があり、まちづくりの土台となる対話の文化を育む、まちサポの要となっている事業である。

地域版つれのうてNIGHT

参加者から「地域でもやりたい」と声があがり、現在、日吉台・加茂・松永・桜丘・iti SETOUCHI・福山市立大学の6カ所で開催している。立場や世代が異なる人の情報交換の場、若い世代が気軽に地域に関わる入口として広がっている。地域版実施にあたっては、「つれのうてNIGHTのはじめ方講座」の開催やスタッフによるスタートアップの支援も行っている。



様々な世代、地域の人たちが訪れる対話の場



加茂学区の地域版つれのうてNIGHTの様子

参加者の声

地域でLGBTの当事者の存在や活動を知ってもらいたいと思って参加しました。いろんなテーマについて話ができて、今までとは違った見方ができたり、生きていく上での参考になっています。つれのうてNIGHTに参加したことで、人生で初めてLGBTのサポーターに出会えたことが心の支えになっています。



参加者の声

困りごとを拾うにはフリートークが一番大事だと思っていたので2023年8月から地域版を始めました。耕作放棄地を持つ人と土いじりをしたい人がつながって、新しい取り組みも生まれそう。ちょっとしたことで、この場があることでそれらがつながる可能性が出てくると思います。



やってみたいを後押しする伴走型講座

まちサポゼミ

ゼミ生 ■第1期:8人 ■第2期:5人

- これから活動したい人、今の活動を見直したい人たちを対象とした、全4回のゼミ形式で学ぶ講座を開催。
- 自分の思いの原点を探り、大切にしたいことを軸にした企画から実践までを仲間と共に学ぶことで、多様な活動の創出とゼミ生同士の協働が生まれている。

様々な活動と横のつながり

- ・子どもの対話の場「こどもトイノバ」
 - ・地域でつくる「日吉大好き♥スポーツ祭」→ サポート事例04
 - ・企業との連携「ちいさなお仕事プロジェクト」→ サポート事例05
 - ・食を通じたコミュニティスペース「チロル酒場」等
- 新しく生まれた活動もあれば、ブラッシュアップされた活動も。お互いの活動が見えることで、ゼミ生同士が活動に参加し合ったり、協働することにもつながっている。

参加者の声

ゼミをきっかけに仲間ができ、自分のやりたいことやできることが見えてきました。今はふらっと気軽に来れる対話の場を開催しています。



多様な人材・団体のネットワーク形成

つれのうて文化祭

出展団体数 ■第1回:20団体 ■第2回:22団体

まちサポ登録団体同士の交流や、様々な市民活動の魅力を知ってもらう場として開催。各団体の活動やPRしたいことを、ステージ発表や展示・体験ブースを通して発信してもらった。団体同士の活発な交流が生まれ、「次回も参加したい」と開催を楽しみにしている団体も多い。第2回は、小学生や若者も出展に参加し、体験ブースが充実したことで、来場する親子や子どもが多く、多様な世代に市民活動に触れてもらう機会となった。

生まれたコラボレーション

加茂町で「ツリーイルミネーション」のイベントを企画する団体が、演劇活動と楽器演奏をする団体に出演を依頼し、加茂町で長年続くイベントに新たなにぎわいが生まれた。披露する場を探す団体にとって新たな可能性につながった。

参加者の声

自分たちの団体のことしか念頭になかったと気づきました。他団体の活動に触れ、自分たちも知ってもらえる絶好の機会、今後も参加できるといいなあ。



最終回では「まちサポゼミとは」を一言で表現



「問い」から始まる子どもの対話の場



会場全員でのラジオ体操で開幕



胸骨圧迫・AED体験の様子

3年間のサポート事例

01 登録団体の支援 **ふくやまシュタイナー学園**

#活動拠点 #法人化 #情報発信 #地域連携

様々な活動と横のつながり

2020年にまちサポに登録した「シュタイナーの会 山びこ」は親子でシュタイナー教育を学び実践する場として活動しており、オルタナティブスクールを立ち上げることを決意。活動拠点を探していると相談があった。

まちサポからの情報提供で、2022年11月に地元新聞に掲載され、それをきっかけに連絡をくれた知人の協力で郷分町の民家を借りられることになり、2023年春に「ふくやまシュタイナー学園」を開校。福山市の空家等地域活用支援事業補助制度を活用した。耕作放棄地の活用や秋祭りなどの地域活動にも参加しており、地域住民からも日頃多くの協力が得られている。

法人化検討の際には、NPO等専門相談を利用。自分たちで法人設立ができることがわかり、2024年に一般社団法人となった。

情報発信では新たにInstagramのライブ配信を始めたところ、体験クラスへの申込が満席に。思いに共感してくれる人たちが集まり、効果的な発信ができています。



郷分町の民家を借りて2023年春に開校した



地域の秋祭りに参加する子どもたち

02 登録団体の支援 **ひろしまPCAMP**



衣装や会場装飾には地元企業も協力(TJF提供)



最終日の発表会の様子(TJF提供)

#人材 #情報発信 #活動場所

サポートの経緯

東京の公益財団法人 国際文化フォーラムから、毎年開催しているパフォーマンス合宿「PCAMP」の福山開催が決まり、福山でコーディネートできる事務局団体を探していると相談があった。演劇活動をしている登録団体「リーディング・ファクトリー」を紹介し、事務局を担うことになった。

実施にあたっては随時、開催場所・参加者の宿泊場所・参加者の食事手配・撮影などについて情報提供した。また地元新聞にも情報提供。海外にルーツを持つ子どもたちを含め22人が参加し、プロジェクトは盛況に終わった。

その後の成果

- ふくやま人権大学の演劇ワークショップでの行政との協働。ひろしまPCAMPの実績が協働の安心感につながった。
- リーディング・ファクトリーが主催する演劇ワークショップに、他のNPOが支援している若者が参加。そこから地域の話し合いの場やイベントにも参加するようになった。

03 企業との連携 **ひとまちコネクト**

#活動内容 #企業連携 #場づくり

サポートの経緯

福山青年会議所のまちづくり関連の委員会で、1年間の活動テーマを「連携」とすることから、まちサポとの連携の可能性を探り、福山シティFCを含めた三者共催での交流ワークショップ「ひとまちコネクト」を開催した。地元企業と市民活動団体がお互いの持つ資源と困りごとを持ち寄って掛け合わせ、お互いに無理がなく相談しやすい日常的な協力関係をつくることを目的としている。テストワークを実施したのち、第1回を9月に、第2回を12月に実施。今後は福山青年会議所関連の団体へ引き継がれる予定であり、引き続きまちサポも協働したいと考えている。

派生プロジェクト

- 不登校児や若者の支援団体が「ちいさなお仕事プロジェクト」として福山青年会議所が実施するハロウィンイベントのチラシ封入作業に参加した。
- 若者支援団体の主催行事で会場装飾に利用する廃材を、地元印刷会社などから提供してもらった。



第1回ひとまちコネクトの様子



第2回ひとまちコネクトの様子

04 地域活動の支援 **日吉だいすき♥スポーツ祭**



ワークショップ運営にはゼミ生が協力した



地元企業による機器の体験コーナー

#活動内容 #対話の場づくり #企業連携

サポートの経緯

日吉台交流館での地域版つれのうてNIGHTに参加した方から、「地域の若い世代との交流を増やしたい」と相談が入った。まちサポゼミに参加する中で、コロナ禍で中断していた学区民運動会の再構築に体育会として取り組むことを決め、ワークショップ形式で話し合いの過程からいろんな人に関わってもらうことにした。ゼミで出会った同期生3名にテーブルファシリテーションに入ってもらい、3回のワークショップを実施し、前例にとられない運動会を目標に地域住民で話し合った。まちサポではワークショップのプログラムづくりを支援し、ワークショップに近隣のスポーツジムの方を誘い、連携を促した。

成果

- 参加者の負担になっていたことを解消するアイデアが生まれ、年齢や運動の得意不得意に関わらず参加できるユニバーサルスポーツを取り入れたり、キッチンカーで食事ができるなど、新しい取り組みになった。
- 近隣のジムがトレーニング機器の体験コーナーを提供したり、準備体操の指導をしたりと、地元企業との連携が生まれた。

3年間のサポート事例

05 登録団体の支援 ちいさなお仕事プロジェクト

#企業連携

サポートの経緯

「ひとまちコネクト」に参加した登録団体の「かさねテ」と「どりいむスイッチ」が、福山青年会議所と連携。生きづらさを抱えた子ども・若者を対象に福山市の企業や市民団体で提供可能な「ちいさなお仕事」を通じて交流を図り、人との交流や社会参加の楽しさを感じてもらい「ちいさなお仕事プロジェクト」が生まれた。

10月に福山青年会議所主催のイベント「ふくやまハロウィンジャック」で配布する袋の装飾とチラシ封入作業を手伝ってもらった。当日は子ども・若者8名が参加。オレンジの袋に企業が用意したシールを貼り付け、作業の中で参加者同士の自然な交流が生まれた。企業からはお礼にと菓子つかみ取りも用意され、それぞれがやりがいや楽しさを感じながら達成感を得られる場となった。

派生プロジェクト

- まちサポ主催イベント「つれのうて文化祭」の会場装飾のお手伝いを呼びかけたところ、ふくやまサポステの若者たちが装飾づくりを手伝ってくれた。

※サポステ(地域若者サポートステーション)…全国の若者の就労支援を行う厚生労働省委託の支援機関。福山市ではNPO法人どりいむスイッチが運営受託している。



ハロウィンイベントのチラシ封入作業



つれのうて文化祭の装飾づくり

地域からも! その他いろいろサポート事例

地域からの相談事例

デザインの相談

大谷台学区近所お助け隊

チラシデザインの相談で来所。構成を一緒に見直し、ご自身で修正。「わかりやすくなったと好評でした」とのこと。

Before



After



話し合いの相談

南部地域振興課

地域での話し合いの進め方について相談。小グループに分けて、テーマをいくつかに分けることなどお伝えしところ、実践され「いい雰囲気でした」とのこと。

学校と地域をつなぐ

想青学園

探究学習に関わってくれる地元の事業者を探しているとの相談。食育に関心がある海苔業者を紹介し、授業に参画いただいている。

地域とのマッチング事例

活動場所の相談

子どもおうちごはん塾 UTSUMI BASE × 内海町

福山市南部エリアで民間学童保育を立ち上げたく、活動拠点を探しているという相談。空き家活用に取り組む内海町はどうかと提案したところ、不動産業者を経由して物件を見つけ、民間学童を開設した。週末は飲食店を営業しており、町外からの来訪者増に貢献しているほか、イベントへの出店など町内で積極的に活動している。



行政と地域をつなぐ

野々浜学区 × 公園緑地課 × 地域振興課

公園緑地課より「地域が主体となって公園利活用に取り組む社会実験を考えている」という相談。後日、東部地域振興課を訪問した際に、野々浜学区において取り組みを希望する公園があると伺い、公園緑地課に紹介した。その後、コミュニティーガーデンの社会実験が坂里公園でスタートし、その内容が広報ふくやまや地元紙に掲載された。



「わたしの困りごと」から「みんなの困りごと」へ
変化の記録(Aさん)
まちサポ利用者の

子どもが不登校になり、不登校の保護者会に参加していたAさんは、「当事者の親子で話せる場がほしい」と新たに団体を立ち上げたいと相談に来所。2023年度にまちサポ登録団体になった。まちサポ情報メールを見てセミナーなどにも参加してつながりが広がったそう。まちサポゼミにも参加し、活動する中で他の子どもたちの様子も気になった。子どもが外に出

るきっかけを作れないかと考える中で「ちいさなお仕事プロジェクト」が生まれた。その他にも、PTAとして高校に居場所カフェをつくれないう働きかけるなど、「わたしの困りごと」から始まった小さなアクションが、さまざまな団体と協働して「みんなの困りごと」解決のアクションへと広がっている。

